

タウンミーティング議事録

1 日時

令和4年7月2日（土）午前10時00分から正午まで

2 場所

庁議室

3 出席者

井崎市長、若林総合政策部次長

4 来場者数

13名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

インターネットでの新型コロナワクチンの受付について、パートナーと一緒に予約を取りたいと考えていますが、何とか一緒にできないのでしょうか。

A 市長

ワクチンの予約システムは、流山のみ変更することは難しいです。

コールセンターに電話をいただければ、同じ時間で予約が取れるようにご案内させていただきますので、そちらをご活用願います。

副反応が同時に出ないように少し日をずらして予約される方も多くいらっしゃいますので、その辺りもご留意いただきながら予約いただけるとよろしいかと思います。

Q 市民

市内でペットの糞の放置が散見されます。極端な話となるかもしれませんが、ペット税などを導入し、納めた人には市から発行した証明書等を首輪にぶらさげるなど考えたりしましたが、市ではどのように考えているのでしょうか。

A 市長

ペットの糞の後始末については、啓蒙を継続し、一人ひとりにきれいなまちづくりを意識して守っていただくということが大切となります。

私も糞の放置を見かけた際にはやんわりと注意を促していますが、ほとんどの人が「すみません」とおっしゃって片づけてくれています。こういった問題は、やはり地域の目というものも大切になって来るのだと思いますので、皆さんも見かけた際にはお声がけいただけると嬉しいです。

また、流山の環境部でも、看板を作って啓蒙しているところですが、ありきたりな行政文書とならないよう、工夫していきたいと思います。

みんなで一緒になって綺麗なまちにしていきたいと思います。

Q 市民

流山おおたかの森駅では、南口都市広場の芝生の植え替えをよくやっていますが、子どもが遊んだり、半年くらいですぐに芝生が駄目になってし

まいります。

子どもが遊ぶ場所をつくるのは非常に良いことなのですが、頻繁な交換は税金がもったいないのかなと考えております。

A 市長

南口都市広場については、すでに担当課でも検討しました。リニューアルに併せ、イベント等にも対応できる対策を講じた改修を行い、引き続き適正に管理していきます。今後、ご指摘いただいたような点にも配慮しながら対応していきたいと考えています。

南口公園については、利用者が多く、利用頻度も高いことから、芝がうまく根付きませんでした。芝生の管理方法も含め、芝生の専門業者と検討を進めています。

Q 市民

流山での生活は、車による移動が必要だと思います。ぐりーんバスのルートをもっと増やし、便利にできないでしょうか。

A 市長

ちなみに、ぐりーんバスはよくどのルートをお使いでしょうか。

(松ヶ丘・野々下ルートですとの発言あり)

ありがとうございます。

まず、民間事業者が路線バスを運営し交通網を形成します。ぐりーんバスは、これら民間路線がカバーされていない地域で、かつ、駅から遠い住宅密集地や高齢者の多い住宅地へのアクセスを確保するという目的で作られました。

ぐりーんバスを導入する際は、地域の方と協議し、説明会を行った上で導入するのですが、収支率が50%を下回った場合は廃止、もしくは、もっと収支率が上がりそうな構成に変更とさせていただきます。

昨今では、コロナの影響で、利用者が減少し、本来であれば廃止となるような収支率となっていますが、アフターコロナに需要が増えることを見据え、税金で大きく補填しながら、現状を維持している状態です。

皆さまにはぜひ、現在ある路線を大切にさせていただきたいと思っております。

また、新しい路線については、需要をしっかりと調査して新設することか

ら、簡単に増やすことはできません。

妊婦さんや体が不自由な方で、なかなかバス停まで行けないという方にタクシーを利用していただくような仕組みも現在検討しています。

こういったタクシー業界をご利用いただくことも検討いただくとともに、ぐりーんバスは、路線を急ピッチで変更することができないため、少なくとも現在のように、少なくとも30分に1本を死守するという方針で進めたいと考えています。

Q 市民

人口が増えているということは、流山市民として誇りに思います。

一方で、これから高齢化が進み、多摩ニュータウンみたいになってしまうのではないかと不安に思うのですが、いかがでしょうか。

A 市長

まず、多摩ニュータウンなどでは、一か月の間に何千人と同じ世代の方が引っ越してくるため、今のような高齢化問題が顕著に出てきています。

一方で、流山市の場合は、この20年間にわたって、少しずつ増えてきています。

そのような意味では、団地型のように一挙に高齢化が来るということは避けられていると考えています。

ただ、少子高齢化で流山市に転入される方の母数も減ってくるので、いつかは避けられない問題だと思いますが、流山市は、30代から40代が一番多い層のため、あと40年から50年先の話になると思います。

10年から20年後には、相続などにより、毎年1000戸くらいは住宅が売りに出されると想定していますが、住環境、行政サービスがしっかりとブランド化されていれば、毎年1000戸程度を埋めるくらい、需要は膨れると考えています。

Q 市民

人口が増え、活気が出てきている一方で、みどりが減ってきていると感じます。商業主義満載のショッピングモールも良い面と悪い面があると思いますが、今後も開発を進め、人口を増やしていく考えなのでしょうか。私としては、今住んでいる人たちによる、まちづくり、まちの盛り上がりを推進し

ていきたいと考えています。

また、江戸川台のジェット口跡地について、何か計画は進んでいるのでしょうか。

A 市長

流山市では、宅鉄法という法律に基づき、鉄道路線と区画整理を行いました。

流山市の中部地域では、都市計画により開発できないようにしていましたので、雑木林がたくさん残っていました。

これを約25年前に一気に開発を行ったため、みどりが急になくなったという印象を持たれたのかと思います。

私も、子供と一緒に行って虫取りをしていましたので、森が無くなった時は寂しかったのですけれども、こちらはつくばエクスプレスの沿線の一体的な開発として決まっていたことなので、止める事は出来ませんでした。

そこで、流山市では、グリーンチェーン戦略や街中森づくりプロジェクトにより、この17～18年間で約35万本の木を植え、まちの中にみどりを創出しています。

開発しているエリアでは、昔のままの雑木林は無なくなっていますが、街の中に緑を植えることにより、10年ほど前と比べ緑地は少しずつ増えてきています。

おおたかの森やセントラルパーク駅の東側の斜面、また、新川耕地の斜面などは都心から1番近い森のまちを感じていただけるみどりとして、しっかりと保存していく方針です。

また、人口についても適正人口というものがあると考えています。流山では2027年が人口のピークで、約21万数千人になると予測をしていました。

今後、相続により販売された家を若者が購入することによる人口増加も考えられますが、こういったものは人口予測に入っていないため、多少上振れる可能性もあります。

マンションの大型開発はもうなくなりましたので、流山市は22万人をさらに大きく超えると言う事はないと思います。これが流山市の適正人口だと考えており、人口が増えれば良いと言うものではなく、快適に暮らせることが大事だと考え、そのようなまちづくりを進めています。

商業の活性化という面では、オンラインでの買い物が増えたことにより、地元のお店は非常に苦勞されていると思います。

流山市は在宅勤務者が増えており、地元にも昼間でも人がいるという面では、ある意味、地元のお店の方々には好機と捉えることもできます。

最近の風潮などを取り入れて新しい業務形態を模索しているお店などは大変人気があります。しかしながら、何十年も前から同じような形態で行っているところは、はっきり申し上げると、非常に厳しいと思います。

これはやはり、事業所の方にも工夫をしていただいて、魅力あるものにしていただく必要があると思っています。

最後に、江戸川台駅では東口駅前広場の整備とともに、今年度、旧ジェットロ（日本貿易振興機構）江戸川台職員宿舎の建物を解体します。江戸川台東口商店街のリニューアルも検討しており、江戸川台はこれから流山市の北部として再活性化を目指して、大きなスケールで色々と動いてまいりますので、ご期待ください。

Q 市民

流山市のまちづくりを題材に卒業論文を書いております、2点お聞きしたいことがあります。

一点目は、どうして流山市は若者や子育て世代の人口を増やすことができたのでしょうか。

二点目は、行政運営とマネジメントを絡める1番の効果は何でしょうか。

A 市長

若い人たち、特に子育て世代の人が増えている理由につきましても、先ほどお話ししたことともつながりますが、区画整理でたくさんの宅地造成をしてきたことから始まります。

これが大きく売れ残った場合、流山市の財政破綻につながるため、しっかりと売り切っていくことが重要でした。

当時は、流山市の知名度は非常に低く、首都圏の中で住宅を選ぶ際の選択肢の中に、確実に入ってくるまちとするため、マーケティング課を設置し、共働きの子育て世帯を中心とした若い世代に照準を当てるとともに、子育て世帯に対するバラマキ政策ではなく、「働きながら子育てができる社会的な仕組み作り」に力を入れてきたことが、流山市が若い世代に選ばれている要

因だと考えています。

また、「良質な住環境」も選ばれている要因の1つに入ってきていると思います。

2点目の「まちづくりとマネージメントを一緒に行う」ことは、経営戦略としてこれらを一体的に行っていくことで、流山市では同じ財源でより効果的に仕事ができるようになるものだと考えています。

他の自治体の事例を見ていると、課題が出てきた時に、その課題解決のため、単体で対応していますが、そうすると結果的にはモグラたたきのようになり、その課題は解決するが、また別の課題が出てきて、その繰り返しとなります。

一方で、流山市の場合は、人口推計や人口動態をこまめに毎年分析し、今後どういった需要や課題が出てくるのかを10年ぐらい先までの範囲で予測しながら行政運営を行っています。

経営戦略を持って、具体的な都市づくり、時間軸・財政的なマネージメントをすること、これは私だけでなく部長や課長を始めとした、流山市職員全員が意識して業務に取り組んでいます。

民間企業ではこういったことが当たり前に行われていますが、国も含めて、行政活動では、このようなマネージメントができていない自治体が多く見受けられます。行政運営は非常に大きな金額が動きますので、無駄遣いが発生しないように流山市では注意を払っています。

私からもお伺いしたいことがあるのですが、事前にいただいたご質問の中に、「隣の柏市では自分をアピールしたり自分で何かを始めたりと、若者をサポートする人や施設が多い」というご意見がありましたが、具体的にはどのようなサービスがそれに該当するのか教えていただきたいです。

Q 市民

例えば、柏ではKOILなどです。

高校生などの若い人をサポートする起業家が集まって意見交換するなどの場があるのですが、流山はどちらかと言うと女性のお母さんによる企業に限定されているのかなと感じています。

A 市長

ありがとうございます。

流山市では、いったん離職したお母さんが多いため、そのような方を対象に行っているのですが、老若男女向けは商工会議所が行っています。

これ以外にもこんなものがあるというものがありませんでしたら、ぜひ、市政へのメール等を通じて情報提供いただければ幸いです。

Q 市民

保育園や幼稚園、小中学校で黙食などのコロナ禍における配慮がなされた運営が続いています。レクリエーション行事でも規模の縮小や、人数の制限が課されています。このような判断を教育現場に任せるのではなく、コロナの改善状況を踏まえつつ、現場が少しでも楽になるよう、市が判断の基準を示せたらいいのではないかと思います。

A 市長

教育関係の通達に関しては、県の教育委員会から発出されています。

それを受けて、流山市では、医師会や感染対策の専門家にご助力いただきながら、新型コロナ対策会議を行い、具体的な方針等を決定しており、状況にはよりますが、昨年と比較し、様々なイベントを「できるだけ開催する方向」で模索してきています。

しかしながら、例えば保育園では、年齢構成などが各園で違いますし、一律にこのようにしていただきというルールを決めてしまうと、安全が確保できないという保育園も出てきてしまうので、裁量の余地があるほうが、実情に合わせた判断ができるのではないかと考えています。

なにかがあるるとすぐに休園という自治体もあります。流山市では、共働きの方も多いため、「自粛への協力」はお願いしますが、できるだけ休園しない形で運営してきており、その方向は変わらないと思います。

しかしながら、今週に入って、医師会よりコロナが再拡大してきているという報告がありましたので、油断なく、できる限りの運営をしていただきたいと考えています。

Q 市民

小学校の整備やトイレの設備、図書館の蔵書など、地域間で格差が出ないようにしてほしいと思います。

A 市長

T X沿線の区画整理に伴い、民間主導で様々なものができています。昔は、タクシーで流山といっても分かってもらえませんでした。江戸川台なら分かっていたら、松ヶ丘なら分かるという時代もありました。

その時代時代で最先端の良質な住環境ができており、どこが最新かということは、時代によってまちまちですが、例えば、流山本町は小さいコンパクトな地域ですが、歴史的な魅力がたくさん詰まっており、地域ごとの特性を生かしながらバランスよくやっていきたいと思っています。

初石駅は2年後に橋上化も終了し、東口には車が乗り入れできない設えとしている広場も設けられます。また、西口につきましても、東武鉄道とまちづくりの段取りを協議してまいります。

学校については、増え続けている子どもの数への受け入れる体制を整えることが最優先となりますが、トイレについてはどの学校も洋式化が進んでおり、綺麗になっています。図書館の蔵書や、サポート教員、図書館司書、A L Tの配置といったものは、全校平等に入れていきます。

校舎の新旧の差はありますが、新しい学校建設が終了した段階で、順次古いところから、手を入れていく計画を進めていますので、いましばらくお待ちください。

Q 市民

公立の学校の充実が図れば一層、魅力的なまちになると考えており、広島市や大宮市みたいな市立の中等教育学校は作れないのでしょうか。

次に総合運動公園はすごく充実してきているのですが、水泳ができないのが残念だと感じており、室内型プールは建設できないのでしょうか。

最後に、流鉄の今後の次世代かという観点から、L R T化についてどのようにお考えでしょうか。

A 市長

流山市に転入される方の層を考えたときに、公立だけでなく私立学校も必要だと考えたので、初めはインターナショナルスクールの誘致を考えていたのですが、板橋区が人口減で校舎をまるごと貸出する旨を発表したことで、契約に至らなかったことがあります。

学校選択肢を広げるという意味で、セントラルパークには暁星国際流山小

学校を誘致し、英語、フランス語、日本語による教育が行われています。

しかし、流山市が税金を投入して一番やらなければいけないことは、公立学校の充実だと考えています。

ご提案のあった中等教育学校は、今非常に注目を浴びていますが、これは基本的に県立か私立、あるいは政令都市のような大きな都市による設置が多いので、人口のピークが21～22万人と推計している流山市では財政負担を考えると厳しいと考えています。

流山市では、全国的に珍しく、大阪と流山だけなのですが、子どもたちが使う学習系のデータと公務系のデータを統一化する作業が進められています。これにより経験のある先生だけでなく、若い先生も指導力がアップするような仕組みとなっており、教育の質の向上、子どもの可能性を引き出すという努力を行っています。

プールの件については、財政的に非常に厳しいものであると考えています。以前、25メートルプールを試算した際には、建設費で10億円を超えております。また、毎年続く維持管理費も大きな負担となり、こちらも当時の試算よりも費用が掛かると見込むと、年間1億円近く掛かるのではないのでしょうか。民間のジムにもプールはありますので、できるだけそちらを使っていたらいいと思います。

LRTにつきましては、約30年前、私はアメリカで地域交通や交通計画に携わっていましたが、流山市の人口規模ではLRTは赤字となり、厳しいと考えています。バスの方が頻度やルートを変更し、こまめに対応できるなど、流山市には適していると思います。

Q 市民

「母になるなら流山市」というキャッチフレーズがある中、市長が目指すまちづくりの何割まで達成しているのでしょうか。また、未完成だとしたら何が足りていないのでしょうか。

母になるなら流山市というフレーズで多くの方の誘致に成功していますが、思ったほど支援が厚くないのではないかという声をよく聞きます。

兵庫県の明石市では、高校生まで医療費無料や2人目は保育料が全額無料となっており、こういったものを目指せないのかなと思っていますが、どのようにお考えでしょうか。

A 市長

「私が市長になった時に思い描いた流山市」という意味では、7割くらいのところまで来ています。しかし、新しいトレンドが見えてきて、新しい課題も生まれてきますので、行政運営に終了というのはないものだと思います。

子育てに関しては、先日も東の流山と西の明石というような形で紹介されている記事を見て私も思ったのですが、現金給付サービスの充実は明石市の方が上だと思っています。

一方で、例えば送迎保育ステーションに1億円以上のお金をかけているように、流山市では「働きながら子育てできる仕組み」にお金をかけてきています。

毎日使う仕組みができていないと、そのまちに引っ越せない、もしくは、子育てが終わったら転出してしまうと私は考えています。

本来は国が行うべき施策ですが、「OECDの中で断トツ後進国となっている日本における標準」に満足するつもりは全くなく、現金給付についても効率的な運営により税収を上げ、充実を目指したいと考えています。

流山市と明石市で、重点施策が少し違うなど感じているところがある中で、明石市が先行している部分は、流山市も見習っていきたいと考えています。

また、最近、「子育てするなら流山市」と同意義として理解されている市外の方が多くいらっしゃいます。もちろん、子育てのしやすさも重要なのですが、女性の方は子育てにより、離職率が高いという現状があります。

そのような中、子育てだけでなく、お仕事に復帰されたり、起業されたり、市民活動に参加するなど、一人の女性として活躍できるような仕組みと応援体制をサポートしていますという意味合いが込められていますので、この場でご紹介させていただきます。

Q 市民

おたかの森には子ども図書館がありますが、子供向けのため学習スペースがないので、今後静かな場所で学習できるスペースを設けることができないでしょうか。

次に、子宮頸がんワクチンは今年の5月から2種類公費で打てるようになりましたが、任意接種となっている自費のものについて、市に一部でも補助してもらえないのでしょうか。

最後に、おたかの森も色々なお店ができてきましたが、夜遅くは酔っ払いやコンビニの前にマナーの悪い人がいたりするので、取り締まりを強化できないのでしょうか。

A 市長

中央図書館や森の図書館は閲覧室があり、そこで勉強ができますが、今回のご提案は図書の充実というよりも、学習室のご要望ということですね。こちらについては、ご要望として承らせていただきますので、どのくらい整備が可能かも含めて検討させていただきます。

また、江戸川大学や東京理科大学は流山市民ならば利用できるのですが、最近ではコロナで利用不可となっているので、いつ頃再開予定か確認し、後日ご連絡させていただきます。(後日確認したところ、感染防止のため、当面の間は学生のみ利用とのことでした。)

次に、子宮頸がんワクチンへの支援については、現在検討を重ねているところです。支援対象など、詳細が決定しましたら、広報やHPでご案内することになると思いますので、証明書等を大切に保管していただきながらお待ちいただきたいと思います。

最後に、治安については、警察、流山市民安全パトロール隊、自治会の自主防犯パトロール隊によるパトロールが行われていますが、大体何時くらいに、どの場所が不安でしょうか。

(22時過ぎに駅広場のローソン付近やロータリー付近とのこと)

ありがとうございます。あとは喫煙の問題ですね。こちらはペットの糞問題と通じる場所もありますが、皆さんの目による抑止力も大切となります。できる範囲で結構ですので、注意いただければと思います。

市としても対策を検討していきたいと思います。

Q 市民

流山に道の駅があるといいなと思います。市の紹介スペースや観光客、娯楽誘致をしたり、先ほど意見のあがったコワーキングスペースがあってもいいかもしれません。ロードバイクを乗る人が多いですが、江戸川の近くに道の駅があれば休憩などで立ち止まってくれると思います。実はロードバイクは普通の自転車置き場には置けません。

また、学校教育にブランディング教育を導入してはどうでしょうか。ブラ

ンディングという言葉が学校教育時代に知ることによって、商品と顧客の関係について考えられ、教育につながると思います。

最後に広報活動についても、ただHPに掲載して終わりなどでは意味がないと思うので、例えば流山チャンネルというテレビみたいなことや、公式のSNSがあってもいいのではないかなと思います。

A 市長

道の駅については、国や県が関わっている仕組みなのですが、ほとんどの道の駅が赤字となっています。これは、法律で作っている仕組みなので、先ほどお話しいただいた要素が経済ベースに乗らないためだと考えています。

流山の情報発信や産地直売などについては、現在、流山インター付近に民間による開発計画があります。この中に、先ほどお話しいただいた要素が含まれつつあるのかなと考えています。

また、市内にロードバイクのステーションがないということは初めて知りました。これは少し検討させていただきます。

教育におけるブランディングについてですが、ブランディングは、仕掛けみたいなものは必要であり、これらが醸成されることで育っていくものであると思います。このため、学校の教育の現場では、しっかりとしたプログラムとしないと、なかなか受け入れてもらえず、やる必要性をわかっただけないと思います。どのようにして綿密なプログラムに落とし込むべきか、具体的にこの場で説明できないことは心苦しいのですが、教育委員会と整理しながら、できることはやっていきたいと思っています。

時代に合わせた広報についてですが、広報は「お知らせしないといけない情報」を優先しないという大前提がありますが、そのような中、見せ方など、色々と検討を重ねてきました。この秋からは、LINEによるプッシュ型の情報配信を始める予定です。

このような新たな試みを行いながら、行政情報をどのように発信していくべきか、日々検討を重ねていきたいと思っていますので、随時ご提案いただければ幸いです。

Q 市民

先ほど治安の話がでましたが、私が流山おおたかの森駅に終電で帰ってきたときにも、コンコースで投げ銭を求めながら歌っている人がいました。警

察を呼んで対応したところ、歌っていたことに関する平謝りであり、ルールをしっかりと守ることの大切さをわかってもらえていないように感じたので、対話は非常に重要だなと感じました。

本題として、いじめ重大事態への対応として、教育長の任命権者として市長にも責任があると思いますがどのようにお考えでしょうか。

市内では、いじめの他に、教職員による不適切指導体罰があり、プレスリリースされましたが、いじめや体罰という文言が消されている現状があります。

学校運営に関する指揮命令を行う権限は市長にはないというのは理解していますが、アドバイスや助言のように、教育長と接することはあるのでしょうか。教育行政において、ガバナンスが聞いているかということ、市長として、指導とはいかないまでも助言や勧告といったようなことはできないのでしょうか。

先ほど経営戦略という話がありましたが、総合計画の中に人権なども含めSDGsを盛り込んでいると思いますが、これには目標とするターゲットというものがあります。その理念について職員はきちんと理解しているのでしょうか。

最後に、市長への声を届ける方法というのは、市長への手紙がオフィシャルということでしょうか。先日、市長への手紙で面会を求めましたが、結局担当部署に差し戻り、会わないという結論でした。実際にお会いすることがこんなに難しいのかなということと、政治とは困っている市民の話聞くことではないのでしょうか。

A 市長

教育委員会との意見交換、情報交換というものは多岐にわたってあります。その中で、私の意見を述べることはありますが、助言、勧告は行っていません。数年前、滋賀県で発生したいじめ問題に対し、「いじめはなかった」と教育委員会が報告書を提出した際に、市長が調査のやり直しを命じたことがありました。このケースのように、「これは看過できない」という事態を感じ取った場合には、強い助言を行うということはあるかもしれませんが、今の流山市は、いじめ相談対策室を作り、教育長とのコミュニケーションも行われているので、「市長として看過できない」という状況は過去も現在も見えていません。

人権の話も出ましたが、国際社会の中で人権を守れない国というのも無くはありませんが、基本的人権を守るということは基本中の基本だと考えており、現在流山市では、多様性の促進に関する条例を準備しております。

また、障害の有無にかかわらず、様々な理由により生きづらさを抱えている方の総合的な支援についての懇談会も始まりましたが、両方とも、その基本は、すべての人権を守る、そして、すべての多様性を認めるということだと考えています。

職員が基本的人権を尊重するということについて、きちんとガバナンスが効いているのかというご質問については、しっかり効いていると思っています。

個々のケースで様々な事情があり、当人が満足のいくものかということについては、差異があると思います。何事でもそうですが、当事者だけだと情報が偏るので、第三者のお話など、情報元はいくつか担保したうえで、客観的な情報により判断するべきであると考えています。

人間がやることなので、「物事が進んでいるから何も問題は発生していない」とは考えておりません。しっかりと柔軟に考えていきたいと考えています。

最後に、昨日もいただいた面会のお手紙ですが、これまでお答えした通り、客観的な調査に基づく、いじめ対策調査委員会からの報告の結果を待ち、教育長がお話しすべきであると考えています。

Q 市民

現在、軽度のアレルギーを持っているという理由で、保育園の入園を保留されています。市の職員と何度もやりとりをしており、保育園の人員体制が整ってからの入園と説明されていますが、私たちより点数の低い人が優先的に後から入園しているため、私たちはいつまでも入園できません。

アレルギーを持っているお子さんはここなら入園できますよというように事前に提示していれば、保育園を探す負担も多少は減ると思いますが、他の方がどんどん入園しながら、施設に体制が整っていないので入園できないという現状はおかしいと思います。

A 市長

大変ご苦労されていることを思うと、胸が痛くなります。

まず、アレルギー児童の受け入れが可能かどうかの表示は重要だと思いま

す。これについては、どの程度まで大丈夫か、どの人数まで大丈夫かなど、流動的であるものの、受け入れ可能かどうかの表示については、担当部署に指示し、可能であれば表示するようにしていきたいと思います。

保育の現場は命を預かるという側面もあるので、受け入れ体制が整っていない場合には、即時に受け入れることは困難だと考えます。

そこで市では、ご希望の私立保育園は人員体制が整っておらず、入園までお待ちいただくこととなるため、入園が可能と思われる同地区の公立保育園をご提案させていただいており、先日も担当職員より改めてご連絡を差し上げたところですが、そちらの保育園では難しいのでしょうか。

(2人の子の送迎が別々になると負担が大きいとの意見あり)

A 司会

本件は詳細なご説明が必要となってまいりました。市政へのメール等でお便りをお寄せいただければ、詳しくご説明させていただきますので、そこから改めてお問い合わせいただきたいと思います。ご理解のほどお願いいたします。

Q 市民

おおたかの森の近くに住んでおり、高架下のあたりは、信号と横断歩道が住民の数に比べて少なすぎるのではないかと思います。

斜め横断されていて危険だなど思うこともあり、市役所が道路事情に口出しはできないのだろうなど思いつつも、検討いただけないかと思います。

A 市長

TXに沿った道のことですね。そこは、千葉県公安委員会と協議したところ、距離が近いので横断歩道は設置できないとの判断が出ています。

このため、市の方で危険防止のために渡らないように呼び掛けている状態です。2、3分ほど余裕をもって、マルエツの交差点や北側の横断歩道をお使いいただきたいと思います。

Q 市民

指定ごみ袋の導入は問題ないのですが、やはり袋の大きさに問題があるのかなと思っています。色々な意見があり、整理は大変だと思いますが、袋の

大ききの調整は一考いただきたいと思ひます。

A 市長

もし、袋を変更する際は、その変更が最終案という形での変更としたいので、申し訳ありませんが1年間はこの形で実施し、ご意見を収集させていただきます。

変更するかどうか、しっかりと検証しながら、慎重に検討してまいりたいと思ひます。

Q 市民

フェイスブックで行われていたNの研究室について、費用対効果の部分でどのようにお考えになっていたかお聞きしたいです。

A 市長

皆様ご存じではないかもしれませんが説明しますと、流山市のマーケティング課の事業の中に「Nの研究室」というものがあります。こちらでは、まちづくりや、様々な新しい仕掛けに関する意見交換がされており、実際に実働に向けて動き始めているプロジェクトもあります。

Nの研究室は、令和3年度にDMM.comへ業務委託しました流山市ブランド推進事業、全体として約600万円の事業となりますが、その中で、フェイスブックやオンラインコミュニティーに13万円ほどの予算を取っており、このうちの一つの取組みとしてNの研究室があります。単体でいくらということは算出できませんが、費用対効果は悪いとは思っていません。これからどのような仕掛けが生まれ、それを実現していくかというところにかかっていると考えていますが、生まれてきそうな気配が濃厚なので、私は期待しています。

Q 市民

最後に、小さな子どものいる家庭において、お父さん、お母さん同士の横のつながりが希薄化しているなど感じることもあるので、お伝えしておきたいと思ひます。

A 市長

現在、オンラインで特に30代から40代の若い方々が様々な活動を立ち上げています。

例えば、パパレヤマというお父さんたちの会もあります。ぜひ、ネットでの呼びかけに対しレスポンスしていただき、関係を構築していただければ幸いです。

かなり楽しい流山ライフになると思います。